

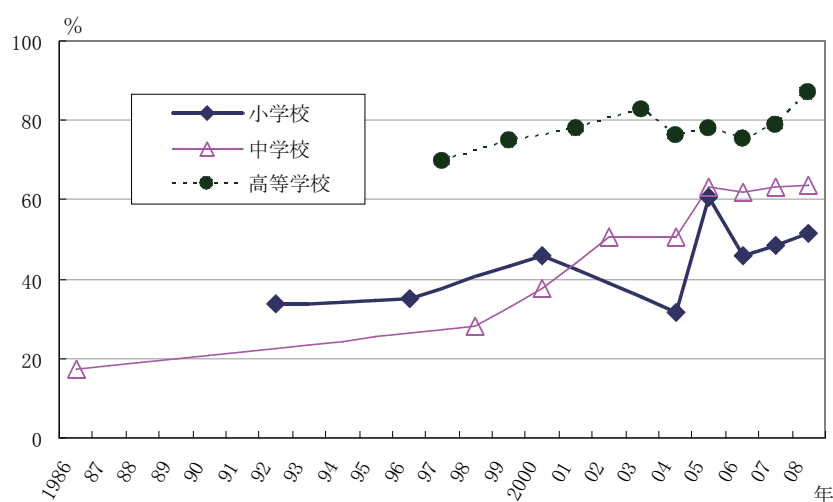
第1章 教育旅行における体験活動の経緯と現状

1. 教育旅行の目的の変化と体験学習の広まり

本章では、農山漁村における宿泊体験の実態に迫るため、教育旅行のうち、特に統計情報が整備されている修学旅行の動向に焦点をあて、修学旅行に取り込まれた体験学習（ここでは宿泊を含まないものも対象とする）の広まりとその実態について分析する。

ところで、修学旅行の内容として、農山漁村における体験を積極的に組み込んだ形態のものは、意外にもその歴史が浅い。修学旅行の歴史的な変遷をみると、異文化と接し学びを得るという修学旅行の理念から、関東の学校ならば圧倒的に京都・奈良、関西その他の地域の学校ならば東京という国内における相対的異文化圏へ相互訪問する旅行形態が多かった。しかし、現在、戦後半世紀近く続いたこのトレンドに変化の兆しが見られる。東京への修学旅行は、地方の生徒にとっては依然として、進学に向けた情報収集や社会見学という重要な意義を持っているが、京都・奈良の修学旅行については、生徒たちの歴史的な興味関心の低下と旅行コースのマンネリ化が、学校側から敬遠される大きな理由となっている。新しい修学旅行の形態を模索している学校ほど、修学旅行の古都離れが進みつつあるのが現状である（小椋〔2〕）。

一方、これに代わってトレンドとなりつつあるのが、様々な体験を組み込んだ修学旅行のスタイルである（第1-1図）。しかし、実際の「体験」の中身は多様であり、子どもに対する教育効果も、受入地域に対する波及効果も体験の内容次第で大きく異なるものと考えられる。本章では、こうした様々な体験活動のうち、農村を舞台に繰り広げられる体験活動（農家民泊や農山漁村における農林漁業体験、そば打ちなどの郷土料理体験などの活動）を組み込んだ修学旅行の実施状況を統計により確認する。



第1-1図 体験学習実施率の推移

資料：(財)日本修学旅行協会「教育旅行年報」，2009年12月。

注．小学生の2000年までは、「特色ある活動」としての調査である。

2. 修学旅行の実施概況

まず、体験活動を組み込んだ修学旅行のトレンドをみる前に、近年の修学旅行全体の実施状況とその動向について押さえておきたい。小・中・高等学校における修学旅行の実施率は第1-1表に示した。2008年度の修学旅行実施率は、小学校平均が88.6%、中学校が96.7%、高等学校が96.0%であり、小学校、中学校については私立学校の実施率がやや低くなっている。また、私立の中学校、高等学校では海外へ渡航する割合も高くなっているのが特徴である。

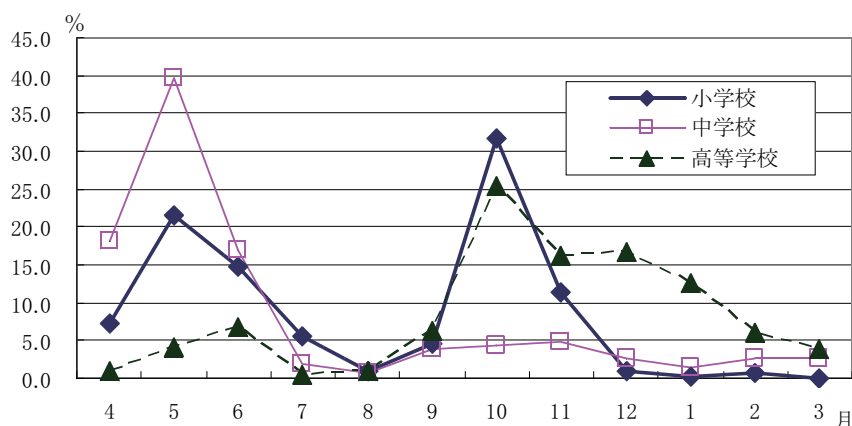
(1) 実施時期

第1-2図は修学旅行の実施時期を示したものだが、同図によれば小・中・高等学校によって実施時期に大きな差がみられる。まず、小学校は、10月（31.7%）と5月（21.5%）にピークがあり、2極化している。中学校は、5月実施の割合が39.8%と特に高く、4月実施（18.0%）、6月実施（17.0%）を合わせると、春の3ヵ月間に74.8%が実施されている。これに対して、高等学校は秋実施の割合が高く、10月（25.3%）をピークに、それ以降1月までの秋・冬期間における実施率が高くなっている。このように、中学校と高等学校で実施時期が大きく異なっているのは、中学校は多くが3年次の春期に実施しているのに対して、高等学校は多くが2年次の秋・冬期に実施するといった実施学年の違いがその主な理

第1-1表 修学旅行実施率(2008年度)

	(単位:%)			
	公立	私立	国立	全体平均
小学校	90.5	75.7	88.2	88.6
中学校	97.7	88.4	96.3	96.7
うち国内	97.2	60.5	85.2	93.0
高等学校	95.3	97.8	80.0	96.0
うち国内または国内・海外選択	86.6	69.0	80.0	76.8

資料:(財)日本修学旅行協会「教育旅行年報」, 2009年12月.



第1-2図 小・中・高等学校別にみる修学旅行の実施月

資料:(財)日本修学旅行協会「教育旅行年報」, 2009年12月.

由と考えられる。

(2)宿泊泊数

修学旅行における小・中・高等学校それぞれの泊数は、第1-2表に示した。同表によると、小学校は1泊2日が78.5%と最も多く、中学校は2泊3日（75.0%）が中心である。また、高等学校は3泊4日（59.6%）と4泊5日（27.3%）を合わせると86.9%におよび、年齢に応じて長期化している。それぞれの平均泊数をみると、小学校は1.28泊、中学校は2.27泊、高等学校は3.24泊と、小学校に比べて上級校では、ほぼ平均して1泊ずつ増えていることがわかる。小学校についてみると、3泊4日以上は5.1%に過ぎず、3泊以上の行程は非常に少なくなっている。

次に、小学校の旅行日数を地域別にみたのが第1-3表である。データは2005年とやや古いですが、全国平均で1泊2日が69.4%を占める中、2泊3日と3泊4日の割合は関東（それぞれ38.6%、14.9%）が特に高くなっている（四国はサンプル数が4件のため分析から除外した）。これは、小学校全般が1泊2日を中心としている中であって、宿泊泊数が相対的に多い私立小学校の割合が関東で特に高くなっていることが影響しているものと考えられる。

また、中学校（2005年度）をみると、3泊4日以上の割合は、旅程が比較的長距離に及ぶと思われる北海道（計93.9%）をはじめ、四国（計84.3%）、九州（計41.2%）など本州以外の地域で高くなっており、逆に、中国、中部では逆に2泊3日の割合が高く（それぞれ93.3%、92.9%）なっている（第1-4表）。中国、中部地域については、それぞれ中国が関西地区、中部が関東地区といった旅程300km程度の近接地域への旅行が大半を占めるため、2泊3日の割合が高くなっているものと考えられる。関東（85.1%）、近畿（84.2%）は、数

第1-2表 宿泊泊数別校数割合

(単位:%, 校, 泊)

区分	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上	校数計	平均泊数
小学校	78.5	16.4	4.3	0.4	0.4	494	1.28
中学校	-	75.0	23.1	1.8	0.1	781	2.27
高等学校	0.1	9.8	59.6	27.3	3.2	809	3.24

資料:(財)日本修学旅行協会「修学旅行年報」, 2009年12月. 中学校のデータは, (財)日本修学旅行協会「修学旅行白書2009年版」, 2009年1月.

第1-3表 地域別宿泊泊数別校数割合(小学校, 2005年度)

(単位:泊, 校)

区分	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日以上	校数計
北海道	88.9	7.4	3.7	0.0	27
東北	82.4	17.6	0.0	0.0	17
関東	43.6	38.6	14.9	3.0	101
中部	92.1	5.3	2.6	0.0	38
近畿	77.8	16.2	5.1	1.0	99
中国	84.6	3.8	11.5	0.0	26
四国	0.0	50.0	50.0	0.0	4
九州	71.0	25.8	3.2	0.0	31
全国	69.4	21.3	8.2	1.2	343

資料:(財)日本修学旅行協会「教育旅行白書2007—修学旅行を中心として—」, 2007年.

第1-4表 地域別宿泊日数別校数割合(中学校, 2005年度)

(単位:泊, 校)

区分	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日 以上	校数計	平均 泊数	対前年 泊数増減
北海道	6.1	85.7	2.0	6.1	49	3.2	0.2
東北	73.9	25.2	0.0	0.8	119	2.4	0.0
関東	85.1	9.2	1.4	4.3	282	2.4	0.1
中部	92.9	6.3	0.4	0.4	224	2.1	0.0
近畿	84.2	11.7	2.0	2.0	196	2.3	0.2
中国	93.3	6.7	0.0	0.0	90	2.1	0.0
四国	15.7	80.4	3.9	0.0	51	2.9	0.1
九州	58.8	32.8	5.0	3.4	119	2.7	0.0
全国	76.6	19.6	1.6	2.2	1,130	2.4	0.1

資料:(財)日本修学旅行協会「教育旅行白書2007－修学旅行を中心として－」,
2007年.

第1-5表 宿泊先形態構成比

(単位:校, %)

区分	小学校	中学校	高等学校
ホテル(洋室中心)	38.6	55.1	63.9
旅館(和室中心)	49.1	35.6	29.9
公共施設・国民宿舎	5.4	0.9	0.3
休暇村・少年・青年の家	2.9	0.3	0.4
一般民宿	1.7	0.9	1.0
農山漁村民泊	1.2	1.3	1.6
ペンション	0.2	2.7	1.5
その他	0.9	3.3	1.4
延べ泊数	578	2,408	2,609

資料:(財)日本修学旅行協会「教育旅行年報」, 2009年12月.

値だけからみれば両者の中間的な割合であるが、それぞれ関西地区、関東地区への旅行が大半を占める中、旅程600km程度が中心となるため、3泊4日の割合が若干増えるものと考えられる。

(3) 宿泊施設の種別

次に、宿泊施設の種別について確認しよう。小・中・高等学校別に宿泊先種別をみたのが第1-5表である。小学校では、和室中心の旅館が49.1%となっており、洋室中心のホテルは38.6%にとどまっている。しかし、ホテルの割合は、中学校で55.1%、高等学校で63.9%と過半数を占め、旅館の割合は逆に35.6%、29.9%と中・高等学校になるにつれ減少している。こうした中で農山漁村民泊は、小学校1.2%、中学校1.3%、高等学校1.6%となっており、統計上で見ると、修学旅行においてはいずれも依然として少数であることがわかる。

(4) 修学旅行の実施内容・体験内容

旅行実施内容については、全クラスが同一行動し、同じ箇所を見学する従来の観光型から観光を含む体験学習・班別自主行動型への移行が進んでおり（日本修学旅行協会〔4〕）、旅行実施内容もこの影響を受けて多様化が進んでいるものと考えられる。小学校について

第1-6表 旅行実施内容別校数(小学校)

(割合:校, %)

区分	2007年		2008年	
	実施校数	割合	実施校数	割合
寺社・町並み等の見学	453	37.3	570	35.6
博物館・美術館等の見学	217	17.9	311	19.4
伝統工芸などもの作り体験	131	10.8	164	10.2
自然体験・野外活動体験	100	8.2	133	8.3
平和学習	81	6.7	106	6.6
企業訪問・職場体験等	33	2.7	62	3.9
伝統芸能・祭り・芸術体験	33	2.7	47	2.9
料理・食品作り体験	40	3.3	36	2.2
農林漁業体験	18	1.5	34	2.1
環境学習	24	2.0	31	1.9
学校交流・国際交流	19	1.6	27	1.7
スポーツ体験	2	0.2	6	0.4
福祉・ボランティア体験	1	0.1	2	0.1
その他	62	5.1	72	4.5
合計	1,214	100.0	1,601	100.0

資料:(財)日本修学旅行協会「教育旅行白書 2009—修学旅行を中心として—」,
2009年, および「教育旅行年報」, 2009年12月。

実施内容を確認すると、2008年で上位を占めるのは「寺社・仏閣・町並み等の見学」(35.6%)、「博物館・美術館等の見学」(19.4%)、「伝統工芸などもの作り体験」(10.2%)であり、この三者で全体の3分の2弱を占めていることがわかる(第1-6表)。一方、農山漁村をフィールドとしている可能性が高いものとしては、四位の「自然体験・野外活動体験」(8.3%)、八、九位の「料理・食品づくり体験」(2.2%)、「農林漁業体験」(2.1%)などがある。それぞれの実施内容別の割合はわずかだが、上記の三項目を合わせると1割以上(12.6%)となっており、修学旅行全般の取組の中でも一定のシェアを占めていることがわかる。近年、修学旅行が農山漁村で実施可能な分野を多様に巻き込む形で展開していることがこれらの数字からも理解される。

さらに、第1-7表では、焦点を体験学習に絞り、小学生の修学旅行について、その実施内容(メニュー)を確認した。2008年度において最も実施割合の高かった体験学習メニューは「陶磁器(絵付け含む)」(23.5%)であり、これに「伝統工芸・ガラス細工等」(15.2%)、「料理体験(そば打ち等)」(14.6%)が続いている。これら三つの体験メニューは、近年ほぼ一貫して上位を占める需要の高いメニューということができよう。

ところで、この「料理体験(そば打ち等)」に「自然体験」(10.1%)、「農山漁村体験」(9.6%)を加えた三つの体験メニューは、体験メニューの中でも直接的に農山漁村に関わるメニューであり、これら三つの合計は全体の3分の1(34.3%)にもおよんでいる。中でも、「自然体験」と「農山漁村体験」の割合は、経年変化をみてもわずかながら増加を続けており、小学校の修学旅行における体験メニューとして一定程度認知され、位置づけを確立しつつあるとみることができる。

なお、体験メニュー別にみる体験料金(第1-7表の右欄)をみると、全体の平均金額が1,238円であるのに対して、特に料金が高くなっているのが「農山漁村体験」(2,029円)と乗馬やカヌー体験などを内容とする「スポーツ体験」(1,822円)である。農山漁村体験について

第1-7表 体験学習実施内容別構成比と平均費用(小学校)

(単位:%, ポイント, 円)

区分	実施内容別構成比			対前年増減ポイント数		3カ年(06~08) 加重平均費用
	2004年	2006年	2008年	04-06年	06-08年	
陶磁器(絵付け含む)	13.6	23.2	23.5	9.6	0.3	1,153
伝統工芸・ガラス細工等	19.7	20.7	15.2	1.0	▲ 5.5	1,136
料理体験(そば打ち等)	24.2	14.2	14.6	▲ 10.1	0.5	1,126
自然体験	6.1	8.2	10.1	2.2	1.9	1,099
農山漁村体験	6.1	7.9	9.6	1.9	1.7	2,029
その他	9.1	4.0	7.6	▲ 5.1	3.6	1,009
スポーツ体験(乗馬・カヌー等)	6.1	6.8	5.8	0.7	▲ 1.0	1,822
職業体験	0.0	1.7	3.8	1.7	2.1	1,359
平和学習	-	2.3	3.5	-	1.3	703
染色・織物等	9.1	5.4	2.0	▲ 3.7	▲ 3.4	1,315
座禅・法話・講演等	0.0	2.5	2.0	2.5	▲ 0.5	845
芸術体験	6.1	2.5	1.3	▲ 3.5	▲ 1.3	1,313
防災・福祉体験	0.0	0.6	1.0	0.6	0.4	250
計	100.0	100.0	100.0	-	-	1,238

資料:(財)日本修学旅行協会「教育旅行白書2006, 2008—修学旅行を中心として—」, 2006年, 2008年,
および(財)日本修学旅行協会「教育旅行年報」, 2009年12月.

注. 1) 実施内容別構成比は, 体験プログラムベース.

2) 2004年の「平和学習」は, その他に含まれている.

第1-8表 修学旅行の費用構成(小学校)

(単位:円, %)

区分	2005年		2008年	
	金額	割合	金額	割合
交通費	8,485	34.4	9,106	35.1
宿泊費	9,874	40.0	9,656	37.3
体験学習費	2,351	9.5	2,710	10.5
その他費用	3,947	16.0	4,450	17.2
総費用	24,657	100.0	25,922	100.0
一泊当たり宿泊費	7,053		7,015	

資料:「教育旅行白書2007—修学旅行を中心として—」(財)日本
修学旅行協会, 2007年, および(財)日本修学旅行協会「教育
旅行年報」, 2009年12月.

ては、少人数での実施形態が多く、また、地域内の農林漁家など多くの関係者が仕事の手を休めて体験に関わることから、あえて高い料金設定をしている地域があり⁽¹⁾、そのことが影響していると考えられる。なお、スポーツ体験は、各種用具代や保険料などに費用がかかることを考慮すれば、一定程度の料金の高さはやむを得ないであろう。

最後に、第1-8表は小学校で行われている修学旅行の費用構成をみたものであるが、2008年の総費用は小学校平均で2万6千円弱かかっており、3年前の2005年に比べると1,000円以上アップしている。しかし、1泊あたりの平均宿泊費は約7,000円とほぼ変わらず、結果として、宿泊費が相対的に圧縮され交通費や体験学習費などが高まることとなっている。旅行費用全体に占める体験学習費(10.5%)は絶対額としては必ずしも大きくないが、割合は、2008年には全体の1割を超えている⁽²⁾。このことは、前掲第1-1図でみた体験学習の実施率の高まりの中で、費用構成の面でも体験学習にかかる費用が一定のウエイトを占めるに至ったとみることができよう。

注

- (1) 長野県飯田市における宿泊体験活動の受入農家に対するヒアリング結果。
- (2) ここで、参考までに、農家民泊を含む農業体験の場合に受入農家を得る粗収入を試算した。
まず、農山漁村体験の一回あたりの平均費用は2,029円である。平均宿泊費は7,015円であるが、これはホテルなども含んだ平均であるため、これに0.749（ホテルの平均宿泊料金〔10,529円、2007年、JTB観光白書〕とペンションの平均宿泊料金〔7,887円、2007年、JTBF観光経済レポート〕との比）を掛けた5,254円程度が現実の農家民泊の宿泊料に近いように思われる。この5,254円＋2,029円＝7,283円が、小学生一人あたりの平均支払推計額である。実際の農家側の粗収入額は、旅行会社の手数料が10%、地元のコーディネート組織の手数料等が15%程度（いずれも実態調査から得られた値）と仮定し、消費税（5%）を差し引けば、ここから30%減となる5,098円程度と考えられる。なお、後掲第2-3表によれば、民泊の平均宿泊料金は約5,700円強（＝3,586円×1.6泊）である。